

血液や尿などの「生体試料（バイオリソース）」を、創薬や患者の体質に合わせた医療などに活用するため、神戸大学と医療機器メーカーのシスメックス（神戸市中央区）、神戸市、神戸医療産業都市推進機構が30日、一般社団法人を設立したと発表した。神戸大病院（同市中央区）が原則的に患者の同意の下で採取したバイオリソースを提供し、同法人が製薬会社などと医療機関の橋渡し役を担う。神戸市は神戸医療産業都市の中核組織として位置付けている。（霍見真一郎）

患者検体 創薬に活用

神戸の産官学 社団法人設立

製薬会社と医療機関橋渡し

新法人の名前は「バイオリソース・イノベーション・ハブ・イン・コウベ」。略称は英語の「バイオリソースセンター」で頭文字を取った「BRICK（ブリーク）」で、ポトアイランドの神戸国際交流会館内に設立された。

血液や尿、手術で抽出した組織など患者の検体である生体試料は、創薬や診断薬開発、患者の個別事情に対応した医療の研究には欠かせないとされる。ただ個人情報や治療情報など結び付いた生体試料を、製薬会社などの企業が独自に入手するのは困難だった。

産官学が参加する同法人は、神戸・ポトアイランドにある「立ち上げ時の基金は全額シスメックスが拠出。今後参加する企業などにも拠出を呼び掛ける。武田廣・神戸大学長は「大病院の治療・研究と、製薬企業などの産業界、さらに地域との橋渡しで重要な役割を担うことになる」としている。